



殻を破り次の世界へ

校長室便り
R5年度 No.14
12月19日発行

12月



座右の銘を見つけよう！



「七転八起」、この言葉は約20年前に勤務していた中学校で、卒業に際して、クラスの生徒たちに贈った言葉です。「長い人生においては幾度も倒れることがあるけれども、たとえ倒れても必ず起き上がってほしい」という願いを込めた言葉です。

今年の夏に、この言葉を贈った卒業生の同窓会がありました。35歳になった彼らは、徳島、東京、大阪、アメリカ、シンガポールなど様々な場所で、エンジニア、商社マン、医師、弁護士、シェフなど様々な職業に就いて、頑張っているとのことでした。

彼らは超就職氷河期に大学を卒業しました。希望どおりに就職するのが非常に困難で、彼らのほとんども思いどおりにいかず、再チャレンジしたり、新たな道を切り拓いたりしたそうです。しかし、彼らと話していると、就職困難な時代をそんなに恨むこともなく、人との関係を築きながら、たくましく明るく生きていることが本当に伝わってきました。

そんな彼らの中の一人から次のような話を聞くことができました。自分が思うように就職が決まらず、どうしようかと迷っていた時、卒業式の時に私が話した「七転八起」の話を思い出したというのです。それは次のような話だったというのです。「上手くいかない時は立ち止まり、現状に目を背けるのではなく、現状を見つめて、自分は何がしたいのか、そのためには何が欠けていて必要かを考えて、足りないことに全力で取り組み自力を付けることが大切である。また、決して孤立せず、親や先生、先輩や友だちにアドバイスをもらうことも大切である。そして、力を付けて次の目標に向かって進んで行こう」という話だったそうです。

今、改めて考えてみると、20年前に卒業に際して贈った言葉は、その後の彼の生き方に影響を与える、苦しい時に心の支えになる言葉だったのだと感じます。世界には格言やことわざなど、自分の生き方の支えになる言葉がたくさんあります。変化の激しい時代であり、正解のわからない課題に向き合わないといけないこれからの時代、直面する課題をしなやかに受け止め、粘り強く解決を図っていくためにも、自分の心の支えになる座右の銘を見つけしてほしいと思います。